

一般質問通告書

⑤

多可町議会議長 河崎 一 様
多可町議会議員 笹倉 政芳



平成 26年 9月 4日	
受	午前
領	午後 8時 30分

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. アナログ廃止後のサイレン吹鳴について	町長
<p>消防サイレンについては、現在北はりま消防指令センターから無線により遠隔操作で機動し、緊急時消防団の出動指令がなされていると承知しておりますが、この遠隔操作に用いる消防無線が、平成 28年 5月 31日をもって、アナログ無線が使用できなくなり、デジタル無線に変換されるとお聞きしております。現在のサイレン吹鳴は、アナログ無線を活用されています。デジタル無線に変換されると、現状の機器のままでは現在のモーターサイレンの吹鳴ができなくなると思慮致します。消防団員の招集について携帯電話へのメール配信もあるようですが、三木市や小野市の市街地とは違い地域の広い山間の多可町に於いて消防サイレンは、消防団の出動だけでなく、自主防災組織や地域住民の皆様に、危険の察知、避難の準備、災害の情報発信として重要な役割を果たしており、必要不可欠であります。今後の対策として、現在のモーターサイレンを活用するのか、防災行政無線の屋外小局を活用してサイレン吹鳴をするのか、今後はサイレン吹鳴をしないのか、また他の方法を考えているのか町長の答弁を求めます。</p>	

2. 砂防・治山堰堤の必要性について

町長

全国各地でゲリラ豪雨が発生する回数が増え続けています。今年の8月は台風11・12号の影響とみられる豪雨が日本の広範囲で記録されました。中でも8月16日～17日にかけて隣の福知山市と丹波市が8月19日～20日未明には広島県広島市と、立て続けに集中豪雨による大洪水と大規模な土砂災害が発生し甚大な被害と多くの尊い命が奪われました。お亡くなりになられた方々に心からご冥福をお祈りし一日も早い復興を願うところで御座います。多可町におきましても昨年には1時間に113ミリを記録する豪雨に見舞われたところであり、一つ間違えば大惨事になっていたかもしれないと振り返ると身が引き締まる思いです。さて8月29日に議会の有志でボランティアに行かせてもらった時、丹波市の市島支所からバスで前山地区に入って目にしたのは特に大きくない山の谷合いが、あちらこちらと抜けていたのには驚きました。また広島市の安佐南区の山頂からの土砂災害は甚大で、どちらも共通する所は砂防堰堤や治山堰堤の工事が実施されていない所で特に大きな被害が発生しています。多可町も山間に位置する集落が多くあり、土石流が起きれば命が奪われ、孤立する集落が出る危険性が大であります。平成21年の大雨による土石流や流木を防ぎ加美区轟集落を守った砂防堰堤があります。堰堤は山の中に建設するものであり、住民の皆様に直接目に触れにくい物ですが、実はとても必要なものです。多可町の土砂災害危険区域内における砂防堰堤(ダム)と治山堰堤建設の3区別の整備率と言うよりは、何本の谷に何基設置されているのか、また現在の計画進捗状況と地区別の堰堤設置箇所図面作成の取組みについて町長の答弁を求めます。